

〔別紙2〕

審査の結果の要旨

氏名 河合泰代

音の長さの知覚には一般的には音の高さ，強さが影響することが知られている。高い，強い音は主観的に長く知覚され，逆に低い，弱い音は短く知覚される。ところがある特定の言語を習得した場合には，長さの知覚において高さ，強さの影響を受けない例外が出てくるという可能性が先行研究から日本語話者について示唆されている。本論文はその点を詳細に検討している。そのために，日本語話者の長・短母音のカテゴリー判断における母音長知覚の特性，および母音超，純音長の弁別特性を，長・短母音カテゴリーを持たない韓国語話者と比較検討した。

- (1) 単語音声の長・短母音の同定実験を行った結果，韓国語話者について長・短母音同定におけるアクセント型の影響が見られ，長・短母音同定に音の高さ，強さの影響が示唆された。
- (2) 上述のアクセント型の効果を日本語話者と韓国語話者についてより詳細に検討するために，言語音声と純音を用いた同定実験，長さの弁別実験を行った。その結果，長・短母音カテゴリーが関与しない弁別実験においては日本語話者，韓国語話者共にピッチパターン，強さパターンの影響を受けていた。同定実験では弁別実験と同じ第1音長と第2音長の長さの弁別であるにも関わらず，韓国語話者のみピッチパターン，強さパターン効果が見られ，日本語話者ではほとんどみられなかった。高さ，強さの影響の有無は言語音声であるかどうかに関係なく，

長さの知覚に長・短母音のカテゴリーが関与しているかどうかという点に関係していたことがわかった。

- (3) 長・短母音カテゴリーが関与しない弁別実験における長さの知覚では日本語話者、韓国語話者共通の一般的な高さ、強さの影響を受けていると考えられた。一方、日本語話者の長・短母音の同定という長・短母音カテゴリーが関与する長さの知覚においては、日本語話者は物理的な長さのみで決まるカテゴリー境界により長さの判断をしていると考えられた。日本語の長・短母音のカテゴリー判断には、一般的な長さの知覚とは異なる日本語話者に特有な判断機構が存在することが示唆される。ただし、この特性はカテゴリーが関与するか否かの違いではなく、刺激音長の効果である可能性も考えられる。
- (4) 本研究でみられた、日本語話者の長・短母音同定の知覚特性は、日本語音声の知覚的体系、および生成面の特徴の両者と整合しているものと考察された。

以上、本論文は日本語話者の長・短母音のカテゴリー判断には、一般的な長さの知覚とは異なる知覚特性が存在することを明らかにし、日本語話者に特有な脳内の処理機構が存在することを示唆した。これまでに日本語は世界の諸言語の中でも発話面における音節長の特徴が特異な言語であることは述べられてきたが、日本語話者の音節長の知覚特性についてはほとんど明らかにされていなかった。そのような背景で本研究は日本語について、母語による音声知覚とくに音節長知覚の特異性を実証した点、長・短母音のカテゴリー特性を明らかにした点で学位授与に値するものと考えられる。